

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：34416

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2023

課題番号：20K22031

研究課題名（和文）18～19世紀におけるベトナム東北地域の社会変容と在地住民の生存戦略

研究課題名（英文）Social Transformation and the Survival Strategies of the Indigenous Population in Vietnam's Northeastern Area during the Eighteenth and Nineteenth Centuries

研究代表者

吉川 和希 (Yoshikawa, Kazuki)

関西大学・文学部・准教授

研究者番号：60881464

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は諒山鎮／省に焦点を当て、18～19世紀の北部山地におけるベトナム王朝の支配の変遷および社会変容を考察した。黎朝後期～阮朝初期には、官職を授与した首長に社ごとの徴税と徴兵を担当させていた。1820年代後半から行政改革が進められ、全土で画一的な行政単位（省）を設置すると同時に、北部山地においても首長による官職の世襲の禁止、流官の派遣、土司の廃止など在地首長層に対する権限削減政策が実施された。1850年代には北部山地では清朝から到来した武装集団の擾乱により治安が悪化した。以上の社会変動・政治変動のなか、ベトナム王朝の地方支配に協力することで官職を授与された首長が勢力を維持・拡大した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

18～19世紀は現代のベトナム国家につながる領域的枠組みが形成された時期であり、そこには歴史的・文化的伝統や生態環境を異にする多様な地域が含まれていた。ベトナム王朝権力はこれら多様な地域の複合体を実質的な統一国家へと転換させるため、多方面にわたる統合政策を実施したが、その結果、その後のベトナムが直面する国家統合の困難の多くを先駆的な形で経験することとなった。北部山地は18～19世紀のベトナム王朝が統治の困難に直面した地域の典型であり、国境を越えた密貿易の横行や住民把握の困難さなど現代に通じる現象も生じている。このように本研究は、現代的課題の理解や多面的な歴史叙述に貢献するものである。

研究成果の概要（英文）：Focusing on Lang Son province, this study examines the Governance Transition of Vietnamese dynasties and social transformation in Vietnam's northern uplands during the eighteenth and nineteenth centuries. From the late Le Dynasty to the early Nguyen Dynasty, local chieftains who were given official positions administered the tax collection and military service in each commune. During the Minh Mang period (1820～1841), the Nguyen court initiated a series of reforms to curtail the power of the local chieftains, including abolishing their hereditary status. During the 1850s, Vietnam's northern uplands were attacked by a mass of bandits arriving from China's Guangxi Province. With the background of these social and political changes, chieftains who were awarded government posts for cooperating with the local rule of the Vietnamese dynasties maintained and expanded their power.

研究分野：近世ベトナム史

キーワード：ベトナム北部山地 東北地域 阮朝 黎鄭政権 在地首長 18～19世紀

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究はベトナム北部山地を構成する東北地域に焦点を当て、18～19世紀の北部山地におけるベトナム王朝の支配の変遷および現地住民の動向を体系的に論じるものである。西南中国から東南アジア大陸部に及ぶインドシナ半島北部山地は、これまで主に社会学や文化人類学により研究が進められ、戦略的な文化変容や生業の転換、アイデンティティの創造といった山地住民の独特な行動原理や生存戦略が解明されてきた。近年は山地世界の中でも、平野部の王朝権力から比較的高い政治的自立性を保持していた中国雲南省やベトナム西北地域などの地域の歴史学的研究も進められ、18～19世紀における移民の流入や内陸交易の活発化、王朝権力の介入などの要因による社会・政治構造の変容、及びそれらの諸変動に対する山地住民の生存戦略が解明されつつある。しかし、平野部の王朝権力に対して比較的従順な態度を示してきたベトナム東北地域に関する歴史学的研究はほぼ皆無であった。そこで本研究はベトナム東北地域の中でも諒山鎮/省(現ランソン省)を中心に取り上げ、18～19世紀における社会経済構造とその変容、及びそれに対する在地住民の対応を、未公開の新史料の実証的な分析を通じて体系的に解明し、さらにその成果をインドシナ半島北部山地の歴史的な文脈の中に位置付ける。

### 2. 研究の目的

本研究が扱う近世のインドシナ半島北部山岳地帯は、近年の学界で、経済史のアンソニー・リード(Anthony Reid, ed. *The Last Stand of Asian Autonomies: Responses to Modernity in the Diverse States of Southeast Asia and Korea, 1750-1900*, New York, ST. Martin's Press, 1997)やグローバル・ヒストリーのヴィクター・リーバーマン(Victor Lieberman, *Strange Parallels: Southeast Asia in Global Context, c. 800-1830*, 2 vols., Cambridge, Cambridge University Press, 2003, 2009)あるいは社会学のジェームズ・スコットの研究(James Scott, *The Art of Not Being Governed*, New Haven, Yale University Press, 2009)などを通じて世界の注目を集めてきた。しかし、リードやリーバーマンの歴史研究は海域や平野の国家の視点で山岳地帯をとらえたものであり、近世後期東南アジアにおいて商業活動やフロンティア開発を担った華人の役割、および大陸部諸国の政治統合と領域拡大が注目されたことで東南アジア史上の近世後期の再評価は進んだが、インドシナ半島北部山地社会の変容や地域住民の主体性は等閑視された。一方スコットの議論は山地世界を主体に据え、国家権力からの回避といった山地民の独特な行動原理に光を当てた点で大きな意義があるものの、歴史的な視野をもたない。本研究は、山地側の主体性を歴史的にとらえようとする点で、大きな意味がある。

### 3. 研究の方法

本研究の大きな学術的貢献のひとつは史料面の新しさである。そもそもベトナム史研究については、「史料革命」とも呼ばれる、ドイモイ後のベトナムでの史料状況・研究環境の好転のもとで、文献史学の分野でも外国人研究者による文書館での史料収集は珍しくなくなった。しかし各地方に現存する史料についてはアクセスの困難さから、外国人研究者はおろかベトナムの学界でも調査が進んでおらず、現在も依然として貴重な歴史資料が未開拓のまま眠っている。さらに、その情報が都市部の研究機関にも集約されないことが多いため、その学術的考察はおろか情報収集すら決して容易ではなく、現地の協力者や史料提供者との地道な関係構築が必須である。本研究は、ハノイの調査協力機関や研究者、現地の博物館や文化局などの職員、郷土史家、史料保持者の強力を得て実地調査をおこない、新史料を収集した。

### 4. 研究成果

黎朝後期(1533～1789年)の諒山鎮では、遅くとも1740年までには在地首長を組み込む形で文書行政が確立すると同時に、末端の行政単位(社)ごとに税額と兵数が設定され、在地首長が各社の税課と兵役を管轄するようになっていた。

阮朝(1802～1945年)は1802年にベトナム北部を掌握するが、19世紀初頭の阮朝の北部山地支配は黎鄭政権と同様、官職を授与した首長に徴税と徴兵を担当させるものだった。しかし阮朝初期には朝廷と地方官の間に北城総鎮が介在しており、阮朝朝廷にとっては尚更首長の任命権の掌握は困難だった。北部山地における1820～1830年代の行政改革は、行政単位の再編(鎮の廃止と省の設置など)および首長の権限の削減(首長による官職の世襲の停止や流官(中央が任命した官僚)の派遣など)からなるが、後者を可能にするためにも前者を通じて首長の任命権を阮朝朝廷が掌握する必要がある。首長の権限を削減するこれらの改革に対し、諒山省でも一部の旧首長層が阮朝に反旗を翻したが、最終的に阮朝が勝利したことで阮朝側に与した集団が勢力を保持・拡大した。これ以降は流官統治が原則となったが、諒山省では一部の旧首長層が継続して登用されるなど、地方の実情に合わせた支配のあり方が模索された。とはいえ住民の把握は進まず、戸籍と実態の乖離が頻繁に問題化している。また北部山地における内陸交易の活発化や鉞山開発の進展を背景として、ベトナム王朝にとっては、定住農耕民に賦課される土地税・人頭税とならんで、流通部門に対する課税(関税)や鉞山税が重要だった。諒山省では関税は華人や

新来の移民、鉦山税は中国商人による徴税請負がおこなわれていた。しかし鉦山税については多くの鉦山で開発と閉鎖を繰り返しており、また清朝から武装集団が到来する 1850 年代初頭以降は関税の徴収額も激減した。阮朝は財政危機に対処するため 1865 年からアヘン税の徴収を開始したが、諒山省の税収入は依然として低迷した。

1850 年代以降の北部山地では清朝から到来した武装集団の活動により阮朝の地方支配が動揺する。かかる状況下で 1850 年代前半の阮朝朝廷ではベトナム東北地域の旧首長層が「先祖代々ベトナム王朝に忠誠を尽くしてきた」存在として注目され、戸籍上で旧首長層を「土司」というカテゴリーに分類し徭役免除を認め、代わりに主に軍事面で地方支配に利用することになった。また 1850 年代前半には土司だけでなく在地有力者に武職（千戸・百戸）を授与し、現地住民を統率させるようになる。このように 1850 年代以降制度的な在地有力者の利用に回帰したが、ただし在地有力者による官職の世襲といった 1820 年代以前の状況が復活したわけではなく、形式上は平野部同様の官僚制を維持していた。1820～1830 年代に構築された全国的に画一的な地方統治体制を、大きな変更なく維持せんとする阮朝の努力が看取できる。1860～1870 年代には、上述の在地有力者への武職授与に加えて売官（金銭を納入した者に官職を授与する制度）が実施され、首長層か否かにかかわらず阮朝支配下で官職を得て功績を上げた者が社会的地位を上昇させた。仏領期における新興地主層の勃興と首長層の相対的弱体化は、この延長線上に位置づけられる。19 世紀に阮朝の支配への協力を選択した首長集団は、如上の社会変動の中で、「先祖代々ベトナム王朝に忠誠を尽くしてきた」という元来は王朝権力向けに創作した言説を自己アイデンティティとして内面化し、20 世紀初頭にこの言説を記した家譜を編纂した。これらの家譜がベトナム民主共和国期（1945～1976）の民族学者に注目され、在地住民の「ベトナム王朝への忠誠」が強調されるようになった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 吉川和希	4. 巻 1022
2. 論文標題 19世紀前半～半ばにおけるベトナム阮朝の地方支配の変遷と土司 諒山省を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 pp.16-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 吉川 和希	4. 巻 72
2. 論文標題 18世紀のベトナム諒山鎮における在地首長の動向：脱朗州有秋社阮廷氏・文蘭州周粟社何氏を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 關西大學文學論集	6. 最初と最後の頁 95～115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32286/00027691	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉川 和希	4. 巻 60
2. 論文標題 19世紀初頭のベトナム北部山地における阮朝の支配の変遷	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 117～145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20495/tak.60.2_117	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 YOSHIKAWA Kazuki	4. 巻 16
2. 論文標題 The Le-Trinh Government's Documentary Practices and Relationship with the Qing During the Eighteenth Century: Roles of Local Chieftains in Lang Son Province	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Vietnamese Studies	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1525/vs.2021.16.2.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川和希	4. 巻 130
2. 論文標題 十八世紀北部ベトナムにおける政治的主体としての村落 皂隸・守隸を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 63-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YOSHIKAWA Kazuki	4. 巻 B1(2)
2. 論文標題 Governance Transition in Nguyen Dynasty 's Lang Son Province in the Nineteenth Century	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Science Thang Long University	6. 最初と最後の頁 106-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikawa Kazuki	4. 巻 164
2. 論文標題 Tinh hình xa hoi va Tu truong ban dia o tran Lang Son vao the ky XVIII	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Tap chi Han Nom	6. 最初と最後の頁 56-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川和希	4. 巻 12
2. 論文標題 十八世紀におけるベトナム黎鄭政権の文書行政と対清関係 中越境界地帯の在地首長の役割を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジアの思想と文化	6. 最初と最後の頁 4-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 吉川和希
2. 発表標題 18世紀後半～19世紀初頭の北部ベトナムにおける皂隸と村落
3. 学会等名 2022年度第2回KU-ORCAS研究例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉川和希
2. 発表標題 19世紀におけるベトナム阮朝の地方支配の変遷と土司 諒山省を中心に
3. 学会等名 百越の会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉川和希
2. 発表標題 一九世紀前半～半ばにおけるベトナム阮朝の地方支配の変遷と土司 諒山省を中心に
3. 学会等名 広島史学研究会大会東洋史部会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------